

## 19. ハザードマップを死蔵させないために

ハザードマップは、地域の災害のリスクを知る上で、大変有用な資料だと思っ  
ていますが、住民の方々とお話をしていると、少々片思いになっているところもあ  
るか住民にとっては決して十分でないということもわかってきました。

端的に言えば、わかりにくい、地域に密着した情報になっていない、最近の災害履  
歴だけで不足しているのではないか、具体的な被害が想像できない、潜在しているもの  
が見えないというようなことを聞きます。つまり、括ってしまえば、「自宅周辺のマ  
ップが小さくて読みにくく、想定も甘い印象があり、災害の種類、水系ごとに複雑で  
理解するには重すぎる」ということになります。もっともなことではありますが、そ  
もそもハザードマップは、いわば広域での地域情報でありますので、これを地域へと  
ズームアップすることが重要になるわけで、その辺をマップだけ示して、理解と斟酌  
を望むのは不親切というか顧客満足への対応が必要な気がします。

ハザードマップは、基本的には自然災害による被害を予測し、それを地図化したも  
ので、一定条件下での災害予測ないし危険度予測を示しているものです。それを活用  
するとなると、地形の基本的な理解が必要だし、それをベースにした過去の災害履歴  
の検討も重要なことになります。

多くの人がハザードマップは重要な情報であるといわれ、メディアでも災害時に  
は、ハザードマップでの確認をするようにとの報道がありますが、頭の中で動画化す  
るというのはむずかしい。ハザードマップを適切に利用、活用してもらうためには、  
あらゆるところで、あらゆる機会に説明する機会を設けるべきで、行政もそのために  
財政支援をするべきだと思います。その方法としては解説書の発行という手もありま  
すが、効果を考えれば、学校教育や地域における学習会の実施、そのためのサポータ  
ーの養成、防災士や教員などの研修、専門教員による社会教育といったことを考える  
べきだと思います。

自然災害は常にわれわれの生活に忍び寄ってきているわけで、その規模も頻度も最  
近では確実に増加しています。そのためには、自分の住んでいる土地の地形を知り、  
その特性、災害への耐力、過去の災害履歴を知ることが最低限必要になってきていま  
す。災害に遭遇してからでは遅く、事前に災害の恐ろしさを知ることが大切でありま  
す。災害対策はすぐに対応できるものではありませんので、早期の行動が極めて重要  
で、ハザードマップを教科書にして避難への備えをすることが、被害を最小にする手  
段であることを再認識すべきです。災害列島で暮らす日本人は、地域に関する災害リ

スクに精通し、災害に敏感で、その前兆をしっかりと理解して避難行動することが訓練されているといわれ、世界単位での大きな災害への備えの面での手本になりたいものです。

